

新しい年を迎えて

小坂町長 細越 満



令和2年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を迎えられましたことと、心からお喜び申し上げます。

平成23年4月から10か年を見据えて策定しました第5次小坂町総合計画の町の将来像『ひと』と『まち』が輝く躍動する小坂をめざし、各種施策に取り組んできました。町では、平成28年に策定しました後期5か年計画と、国の地方創生施策に基づく「小坂町版総合戦略」をあわせて、引き続き、皆さまのご助言・指導をいただきながら、各種事業を推進してまいります。

昨年は、懸案でありました旧七滝小学校を改修し、「七滝活性化拠点センター（愛称：あゝいな）」として、4月にオープンさせることができました。一階を大幅に改装し、地区住民向けの地域交流スペースや、七滝小学校時代の展示コーナー、そして企業向けの貸スペースなどを配置したほか、二階は、ほぼ現状のままで、企業・個人向けの貸事務所と貸スペースなどを配置しました。一階の貸スペースには社会福祉法人が入居したほか、二階には外国人向けの日本語学校を開設した企業が入居し、順調なスタートをきっています。

9月には、「小坂町産ワインで乾杯条例」を制定しました。日本ワインである小坂町産ワインを、地域食材とともに町民に浸透させ、小坂町産ワインによる乾杯の習慣を広めることをめざしています。

また、10月には、戦略作物推進により複合型生産構造への転換をめざし、畑作振興の新たな拠点となる「小坂町畑作振

興センター」が稼働しています。ソバ・ナタネ・大豆の乾燥や、ジャガイモの選別・保管等、畑作振興に係る各種作業に弾力的な活用が期待されます。

これらにより、昨年は産業振興の推進に向けて、前向きな出来事があった年でありました。

今年は、十和田湖生出地区に計画している「道の駅」の整備が本格化します。国立公園満喫プロジェクトの一つとして、十和田八幡平国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図るために、進めているものです。十和田湖への玄関口として、また地域ブランド「十和田湖ひめます」の認知度向上及び観光の回遊ルートの拠点として、十和田湖の魅力を発信できる「道の駅」を2023年度のグランドオープンに向け整備を進めてまいります。

また、全国的に人口減少が続くなか、町では人口減少に歯止めをかけるため、町を活気に満ちあふれさせるためには、

若者世代に町に住み続けてもらうことが、一番の近道であると考えています。このためにも、若者をターゲットとした様々な施策を継続して進めていきます。

町では、これまで「子育て・保育」、「健康・医療」、「商工業・雇用」、「教育」など各分野において、他の自治体にもひけをとらない種々施策を展開してきたと自負しております。しかしながら、その成果はまだまだ見えていない状況にありますが、将来において必ずや実を結ぶものと信じております。

現在の総合計画も、残り一年余りとなり、令和3年度からの「第6次小坂町総合計画」の策定に向けて準備を進めているところであります。町の将来像を示す総合計画の策定には、町民の皆さまから「こういう町になってほしい」「こういうことに取り組んでほしい」などといった意見が必要であります。機会があるたびに、ご意見を伺わせていただき、皆さまと一緒にまちづくりに積極的に取り組んでまいります。

結びにあたり、町民皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。